

第1回「つながるKOTOタウンミーティング」実施状況

開催日:令和5年8月29日

会場:深川江戸資料館レクホール

参加人数:36人(内、オンライン参加5人)



【グループ1「こどもまんなか江東区」について】

- 産後4ヶ月～6ヶ月に様々なニーズがあると思うが、必要なサービスを見つけられず、期間内に利用できなかったことがある。受け入れる施設と期間の双方が少し拡充できるとよい。
- ファミリーサポート事業に関して経験者に多かったのは、手続きがやや煩雑という点。あとは一定の期間のみで、サービスに柔軟性があまりない。ボランティアの要素も強い事業だと思うので、それも加味してももう少し使いやすくなるとよい。
- ベビーシッター事業の補助の拡充というところに期待をしている。
- 保育園入園申し込みに関して、勤め人とか会社員（正社員）の人は比較的書類が出しやすいが、就労証明とか、書類の準備で結構手間がある。その辺は申し込みしやすいものになっていくとよい。
- 子育て関係のサービスについて、区報などに掲載されていると思うが、複雑でわかりにくいところもあるので、より一層の情報、デジタルを活用した情報発信をしていただけると。わかりやすくなるのかなと思う。例えば、遊び場やじゃぶじゃぶ池など、どういうところに何があるかなど。
- 江東区は水辺が多いので、そういった水辺のエリアとか周辺を活用した遊び場とかを作っていくと、公園以外でこどもの楽しめる空間ができてくるのではないかな。
- 土曜保育、週末の保育をやっているところが限られているので、週末仕事がある家庭向けの受け入れ施設が1ヶ所でもあればありがたい。

【グループ2「クリーンで開かれた江東区政」について】

- 今回「区の収入をどう上げていくのか」ということもテーマにしてほしかった。
- 今年から花火が区民の人も有料になっているところ、区民がなぜ有料になってしまっているのか。有料化の在り方というものは、ほかにもいろいろあるのではないかな。加えて、花火大会の申し込み先が渋谷区になっている。そのあたりがちゃんと精査されているのか確認したい。
- 区長が給与・報酬を下げる点は評価できると思うが、議員数が44人必要なのかという点は議題に上がった。一番少ない票ですと2,000票の得票となっているが、そこに、例えばボーダーというものがあるといいのではないかな。区長だけが身を切るということをするのではなくて、全体として考えていくことが必要なのではないかな。
- 手続きに関して、オンライン化がうたわれおり、この目的は手続きを簡略にすることにあるが、あくまでも区職員の方には、丁寧に接していただくことが最も必要なことだと思っている。オンライン化・DXの先にある目的を主眼に置いてもらえるとうれしい。

【グループ3「つくろう、まちのデザイン」について】

- 天王洲アイルのような、もっと、水辺で江東区ならではの人が集いitくなるような空間を作ってその空間でどんなイベントができるのかを考えなければならない。その空間はわざわざ足を運びたくなる皆が行きたくなるような感じじゃないと人は集まらないので、ブランディングをする必要がある。例えば、そのスペースを使って、ウッドデッキ等があるようなスペースであれば、江東区らしいものができると思う。或いはこの中でどんなイベントをやるかというときに、多文化共生の話がテーマ6にあるが、江東区内に住んでらっしゃる外国人の方、例えばインド人の方であればカレーをふるまうイベントをやるとか、実際にその人と人が交流できるようなイベントというのが、江東区らしくできるというのではないかなと思う。
- 川の繋がりについて、川を舟でつないでいくようなコースのものがあるそうだが、例えば、このウッドデッキがあるようなスペースと江東区内のいろんな川を、舟で繋いでいくような交通網であったり、8号線と繋がったり、LRTなどの今新しく計画されているところと動線をつなげていくと、とても江東区らしい空間ができるのではないかな。
- ふるさと納税は必ずしもモノでやる必要はないと思うので、例えばコト消費に向かわせるように、江東区らしい、みんなが行きたくなるようなイベントをふるさと納税で企画するなども考えられるのではないだろうか。
- 川沿いにイベントができるスペースをつくったとしても、ゴミだらけになっていたらやっぱり嫌なので、川沿いならではのゴミ問題について、何かしらの対処・考え方をしていく必要があると思う。
- 多文化共生とイベントができるスペースと地域を結びつけていく中で、障害者、知的障害のこども、或いはひきこもりのこどもについて考える必要がある。ひきこもる理由は「何かしたい」というモチベーションがないからではないだろうか。例えば、料理のスキルを身につけることができる施設をつくといいと思う。

【グループ4「広げようKOTOブランディング」について】

- 江東区には海と川と運河という3点セットがあるということは強みだと思う。基本的コンセプトとしては、ある資源を有機的に結びつけて、少ない投資で大きく回収するということになる。その方向で考えたとき、水辺をどうやって使うかという問題で、和船のような伝統技術を使って観光船もしくはAirbnbの船版を作る。住むことはできないが、1泊だったら大丈夫な気がするので、拡充してほしい。
- 船をメインとして、江東区にある他の観光資源と結びつけていく。例えば、船に乗って相撲部屋に行ったり、ワイナリーなどで一杯飲んだりできると良い。
- 主人がアメリカ人なのだが、江東区に来たときにマンホールの写真をたくさん撮っていた。日本のマンホールは蓋にみんな模様がある。これが御朱印のように喜ばれているので、そういう仕掛けを江東区内で作れば、インバウンドを呼び込めるのではないかな。

【グループ5「健康都市 江東区」について】

- コロナや物価高騰等が原因で、シニア世代の外に出る機会がなくなっている。また、実際に介護を経験された方からは、介護の中で世間から孤立したという話などがあつた。そういった、社会からちょっと取り残されてしまったような方たちに対して、どう社会参加を促すかという点で、地域に開かれた交流ができる場所があればよいのではないか。
- 物価高の中、区内施設の利用料も10月から値上がりしてしまうが、区民が気軽に繋がる集える場は金額を維持して欲しい。
- 認知症カフェという場所も増えてきて、当事者や家族と一緒に話せる場というのもできているところもあるが、認知症と一言で言っても、個別のニーズがあるので、そういったことを伝える場が欲しい。
- 今孤立している人たちの社会参加と、孤立している人と医療や福祉につなげるために区に何をしたいかという点、保健所・医療機関・福祉の連携を可能にするアウトリーチ型の福祉。保健所の保健師さんもしくは民生委員などによるアウトリーチ型のサービス。ご家庭に訪問するなど、なるべく取り残される人がいない、みんなが安全・安心に暮らせる江東区を実現していただきたい。
- 飲食店の騒音問題に悩んでいる方がいる。保健所の検査はあつても、飲食店の内部だけで、周辺環境に対する配慮というのは特になされず、一旦営業開始してしまつたら指導するだけで、強制力がないという点を条例等でどうにかならないのか。
- 現在、予防歯科は保険適用外となっているが、最終的には大きな医療費の節約になるので、保険適用について働きかけをしてもらえないか。
- 江東区には集合住宅がたくさんあるが、分電盤の寿命が15年といわれているものが放置され、老朽化している。特に災害時での危険性が考えられるので、行政指導等で対策をしてほしい。

【グループ6「つながろう世代を超えて」について】

- 高齢者も子育てに悩むお母さん、自閉症児や障害を持った方など、誰でも行ける「みんなの家」をつくってほしい。デイサービスのように介護認定受けた高齢者が使うところではなく、行きたいに気軽に行けるような場所づくりができないか。空き家を利用することできると思う。
- 昔は水が出れば、区役所まで避難したようなそういう江東区が、マンションだらけになり、地下鉄も通り、こんなに便利になったというのはやはり、今、後期高齢者を迎えようとしている方々の力があつたからであるということをおぼえてはいけないと思うし、そういう人たちが安心して、過ごせるまちづくりは、下町の情緒が溢れるまちなら絶対できると思うので、100年の時代を生き生きとみんなが生きられるような江東区づくりに区長が取り組むというならば、全力で応援したい。

【オンライン参加グループの意見】

- 小さい子どもを遊ばせながら、親が学べる場所をつくって欲しい。リスクリングという言葉が今流行っているが、親世代でも学ぶことができるような場所、例えば、図書館の中にベビーカーを置いて、子どもを見ていただけるような施設をつくってほしい。
- 子育て世帯へのクーポン配布が行われたところだが、やはりニーズが一人一人違うので、アウトリーチ型の子育てについて、一人一人違った支援を考えていただきたい。
- パパママ向けの性教育を開催して欲しい。その中で、多様性や性自認についても改めて学びたい。
- 給食費の無償化は素晴らしい施策だと思うが、まだ子育て教育支援の中で所得制限があるものなどについては、制限のない一律の支援をお願いしたい。国ができないことを江東区が率先してやってほしい。